

オレオレ詐欺(現金受取型)の犯罪事例

【ケース1】 断りきれずに…

(60代 女性) 自宅で直接 1,000 万円を直接手渡し

甥を装った男から、「電車で携帯電話や小切手の入ったバッグを忘れてしまった。小切手のお金を立て替えなければいけないので 1,000 万円を貸して欲しい。」という電話がかかってきた。

甥と思い込んだ女性は、最初は「ウチにはお金がないから。」と断っていたものの、何度も電話で頼まれたため、金融機関で 1,000 万円を引き出し、自宅を訪れた甥の同僚を名乗る男に手渡ししてしまった。

【ケース2】 「カバンを電車の棚に置き忘れた」

(80代 女性) 自宅で 2,100 万円を直接手渡し

息子を装った男から、「会社の小切手などが入ったカバンを電車の棚に置き忘れた。小切手のお金を立て替えなければいけないので 100 万円用意して欲しい。」という電話がかかってきた。

その話を信じ込んだ女性は、自宅にあった 100 万円を息子の同僚と名乗る男に手渡したが、その後も「本当は 2,000 万円必要なんだ。」等と電話があり、女性は金融機関で 2 回にわたって計 2,000 万円を引き出し、自宅を訪れた同じ男に手渡ししてしまった。

女性は、同日夜に本物の長男に連絡するまで被害に遭っていることに気が付かなかった。

【ケース3】 「株に手を出して会社のカネを使い込んだ」

(70代 男性) 自宅近くの路上で 2,000 万円を直接手渡し

息子を装った男から、「株に手を出して会社のカネを使い込んでしまった。弁済するために 500 万円を準備してほしい。」という電話がかかってきた。息子であると信じ込んだ男性は、金融機関で 500 万円を引き出し、翌日、自宅近くの路上で弁護士を名乗る若い男に現金を手渡した。

翌々日にも 1,500 万円を要求され、さらに 1,500 万円を手渡したが、さらに次の日に 1,000 万円を要求され、男性がさらにお金を引き出すために金融機関を訪れたところ、不審に思った窓口担当者が警察署に連絡し、初めて騙されていることに気が付いた。

【ケース4】 金融機関の窓口担当者の機転で犯人を逮捕

(60代 女性) 被害なし

息子を装った男から、「電車で書類や小切手が入ったかばんを置き忘れた。小切手のお金を立て替えなければいけないので 1,190 万円を用意して欲しい。」と電話がかかってきた。

女性は電話を信じ、金融機関に預けていた定期預金を解約してお金を用意したが、不審に思った窓口担当者が警察署に連絡したため、息子の同僚を名乗り自宅に現金を受け取りに来た男を逮捕することができた。